

C
A
S

News Letter

Center for Asian Studies, Kanagawa University
神奈川大学アジア研究センター

No.17 July, 2022



Contents

《個別奨励研究報告》	
「異なる地域と親族集団に伝わる『慶盤王歌書』の異本の解説」	廣田 律子 …………… 1
《オンライン研究会報告》	
「アジアの政治発展」公開研究会報告	大川 千寿 …………… 3
《オンライン講演会報告》	
「アジアの社会遺産と地域再生手法」公開講演会報告	上野 正也 …………… 4
《調査報告》	
「本田宗一郎 遺訓との邂逅」	田中 則仁 …………… 6
《調査報告》	
「六堰頭首工と大里用水の視察報告」	秋山 憲治 …………… 8
2021年度活動報告(2021年10月~2022年3月)	…………… 9

2021年度アジア研究センター個別奨励研究報告

異なる地域と親族集団に伝わる『慶盤王歌書』の異本の解説

所員 神奈川大学経営学部教授 廣田 律子

中国南部および東南アジア大陸部に移動分布するミエン・ヤオは共通して飄遙過海と称される先祖の移住神話を伝承している。かつてミエンは南京八万山にいたが、寅と卯の年に大干ばつが起こり、海を渡ることになるが、途中遭難し、盤皇・盤王(ピエンフン)に願掛けをし、救護され上陸できたので、救世主盤皇・盤王への願ほどきの謝恩儀礼を行い、その後分散移動をし続けたという内容である。

現在も盤王への謝恩儀礼(「歌堂」儀礼・ガダーン)は中国・タイ・ベトナムで実施されており、儀礼で使用される漢字經典の経文にはこの飄遙過海神話や神々の所業が記され、曲節を付し読経される。

漢字經典の経文の解釈は、その難解さ由に従来の研究では進んでいない。漢族の道教や民間の法教や周辺の諸民族の影響だけでなく、ミエン・ヤオ独自の神觀念・靈魂觀・死生觀が反映されているため解説を難しくしている。しかしミエン・ヤオの儀礼の理解を進めるためには、漢字經典の経文の解説は避けて通ることができない課題である。

すでに過去の調査においてベトナム・中国・タイで収

集した複数の異なる親族集団に伝承される同一タイトルの複数の異本の対照比較を行うことで、解説の精度を上げることが可能となる。そのために本研究ではミエン・ヤオの女性歌手が使用する通称『慶盤王歌書』の複数の異本を使用し、文字の確定と録文を作成するだけでなく、異本を対照させて校訂を行った上解説を進め日本語訳を施す。さらに比較対照の資料の分析を進め、ミエン・ヤオの移動分散過程における変遷や影響関係や系統等を実証的に解明する。

ミエン・ヤオの儀礼文化は、居住地では少数民族としてその文化的価値が十分に評価されず、近代化により次世代への継承の危機を迎えている。本研究により、特に漢字学習と歌唱の学習に課題を抱えている次世代の女性歌手の育成支援に繋がることになると期待する。

具体的には、比較解説するための基礎資料を作成するために手書きの漢字經典の文字の判読・入力作業が必要である。今回『慶盤王歌書』の中国本1冊、ベトナム本1冊の文字入力を実施しそのための謝金を支出できた。

女性用歌書の中国本数種およびベトナム本・タイ本の飄遙過海の内容が記述された部分を比較することにより、

現段階で以下のことが判明した。

まず盤古天地創造、景定元年四月八日洪水、伏羲兄妹の生き残り、兄妹婚、ミエン・ヤオの誕生、劉王竹王唐王魯班の創造、寅と卯の二年にわたる日照り、飄遙過海、五旗兵馬の保護、無事に海を渡れたことに対する謝恩、廣東昌平県への到着が見え、還家願儀礼を行い神々への感謝の祭祀を行う来歴が網羅的に示されている。

具体的な年月日や起きた事柄、景定元年四月八日に洪水が起こったり盤古が天地創造し瑶族六男六女一二姓が生じたり、寅と卯の年に日照りが起こり、飄遙過海をするようになったというように民族にとっての一大事は異なる本の間でも一致が見られる。洪水により伏羲と妹のみ生き残り、兄妹が婚姻する内容は異本間で一致する。しかし伏羲の羲の字が義となる本があるように、書写を重ねていくうちに異なる文字が使われるようになる傾向が見られる。この際読みは同じで異なる文字が用いられる点は、書写する際音読を意識して書写していたと考えられ、単なる書き間違えで片付けられないといえる。歌唱を前提として七言の韻文で構成される歌書の書写は、文字と音を対応させて行われたと考えられる。

地名や人名は伏江廟が福江廟とされたり、五旗兵馬が五其兵馬とされたり、韶州府が招兵県とされたり、広東が広西とされたり、樂昌県が落昌府とされたり差異が見られる。書写を重ねる間に同音異字が用いられたり、現在住む地とのかかわり合いで異字が用いられたと考えられる。

盤古の天地創造や洪水伝承や兄妹婚や工匠魯班等は、中国の広い範囲の漢族や種々な少数民族に伝承されているよく知られた伝承であり、それがミエン・ヤオの伝承とされ重層的に矛盾なく記述されている。つまり、ミエン・ヤオの独自の瑶族一二姓の渡海と遭難、盤王が遣わした五旗兵馬による救助、その後の謝恩儀礼の実施についてのみが記されているわけではないのである。近隣の諸民族に伝承される神話も取り込み、消化吸收しつつパッチワークのような神話ができあがっている。

しかし渡海神話と並び、ミエン・ヤオのもう一つの柱とされる犬祖神話はその片鱗すらも見えない。還家願儀礼の実施される祭場の外には「評王券牒」と称される皇帝により勅令された形式を取る犬祖神話が記述された文書が張り出されている。この内容はいわゆる犬祖神話で評皇の命に従い龍犬盤護が敵王の首を取ってきた功により皇女をめとり山に住み六男六女瑶族一二姓

の始祖となり、ミエン・ヤオは山中を利用し生活する許可を皇帝から得ているという内容である。犬祖神話は渡海神話のように歌唱されたりはしないし、犬祖神話と渡海神話が歌書に混在して記述されたりはしない。これは渡海神話が大歌の形式で伝承されており犬祖神話は皇帝から頂いた文書の形式で伝承されているからだと考えられる。

女性の歌書のタイトル『慶盤王歌書』にあるように盤王の名に集約されてはいるものの、実際には三廟聖王とも総称され、さらに連州唐王グループ、行平十二遊師グループ、福(伏)霊五婆グループ、福江盤王グループ、厨司五旗兵馬グループ、陽州宗祖家先グループとにグループ分けすることができる、ミエン・ヤオの祖先神の神統に属する神々が祭祀の対象とされている。神々は連州、行平、福(伏)霊、福江、厨司、陽州の地名を付して称されるが、これはミエン・ヤオが長年にわたって移住を繰り返してきた記憶の地とそこで活躍した祖先神とが接合して理解されていることを表している。現地では三廟聖王の中でも盤王を特別と考え、救世主の盤王(ビエンフン)さらに龍犬盤瓠(盤護)とも一致すると考えている。

儀礼項目の「盤王願」の小項目「流楽」段階で男性祭司により読誦される「点男点女過山根」に見える渡海神話にもあるように、かつてミエン・ヤオが海を渡り遭難した際、三廟聖王に救いを求め願を掛け、無事に上陸できたので、約束を果たす祭祀を行うようになった。神々との契約関係は現在に至っても引き継がれ、救世主盤王に象徴される祖先神は、子孫の祈願の対象であり続け、大願成就の願ほどきの祭祀が続けられてきたのである。「盤王願」儀礼は、祖先への歌を奉納する祭祀である。神話叙事および歴史叙事である『大歌書』(いわゆる『盤王大歌』)を男性が詠唱し、盤王への願ほどきの内容『慶盤王歌書』を女性が詠唱することで自民族の起源や出自にかかわる伝承を再確認し、祖先を讃え、綿々と継続されてきた祭祀契約とその履行の実践である祭祀が行われる。男性の歌と女性の歌が別々の歌書を用いて並び詠唱されることが重要と考えられる。

今後さらに文字入力した歌書の内容の解読を進めていきたいと考える。